

「阪谷の今を考える座談会」第5回 ご報告

開催日：令和5年3月10日（金） 午後7時～

場 所：阪谷公民館 2階 大広間

参加者：16名

テーマ：阪谷の空き家問題について



- ・率直な感想や日頃思っていることを自由に言い合おう!!



【座談会の目的やルール】

[目 的]

- 阪谷地区の今について、みんなで思っていることや考えていることを自由に話し合って、そこから地域の問題解決のヒントになるようなことがないか、阪谷の望ましい将来像とはなどについて考えましょう。

（※みなさん、地域のいろいろな団体や会で役などをされているとは思いますが、ここでは、一個人として思いや考えを言っていたいただければと思います。）

[ルール]

- この会で結論をとることはしません。みなさんの意見は貴重なご意見として主催側で参考にさせていただきます。ですので、他者の意見に同調するのは大いに OK ですが、否定することはやめましょう。

[その他]

- この会で出た意見は、貴重な意見として公開（氏名等は公開しません）することにご了承ください。

【座談会（第5回）で出た感想、意見等】

〔3テーブルに分かれて、テーブルごとで下記テーマ等について意見交換〕

主なテーマ： ◆阪谷の空き家問題について

第1テーブル

- ◆ 定期的に維持管理されている空き家、あるいはほとんど放置された状態の空き家など、程度差はあるが、現在すでに空き家が各区複数軒見られる。また、世帯の家族状況や高齢化を鑑みると、今後も増えていくと思われる。
- ◆ 空き家や空き地が野生動物（ハクビシン、アライグマ等）の住処になっている例もあり、安全安心な地域づくりの観点から気がかりである。
- ◆ 子どもがいても、就職等により他市や他県に住んでいたりして阪谷地区在住の親と同居しない場合があり、今後、自身の家が空き家化するのではないかという懸念がある。
- ◆ 現在の住居が将来空き家になったとしても、残された家族が「絆」を育み温める「場」であってほしい。また、たとえ住居が取り壊され、「住まい」という実体はなくなったとしても、年に一度（例えば、お盆の頃）に故郷に戻りお墓参りをするなど、家族や親族が集い「絆」を確かめ合いながら、ふるさとを大事に想う心の拠り所になってほしい。
- ◆ 区によっては、他県（都会）から移住してかつての空き家に住み定住している事例があり、今後、空き家や空き地が適切な条件（需要と供給）下で、移住希望者とマッチングし利活用されていくと良い。そのためには、大野市が進める空き家情報バンク制度が利用されていけば、多少なりとも空き家や空き地の問題の解消に役立つのではないか。
- ◆ 空き家問題は将来的に懸念材料であるが、何とかなるだろうという漠然とした思いで毎日生活している人も多いだろう。今後、各集落の常会や例会において、個人情報共有になるので困難な面もあるが、可能なかぎり、地域の問題としてこの空き家問題を取り上げながら、地域の特性にあわせて地域独自の取り組みを進めていく必要があると思われる。
- ◆ 空き家や空き地の利活用が進みやすい地域づくりを目指し、市が進める空き家情報バンクや相談窓口の利用、また、空き家にかかる支援事業の情報などを提供できる環境整備に努めていけると良い。

第2テーブル

- ◆ 空き家はやはり増えていると感じるし、区長などをしてしていると、そういった家に対して所有者の身内の方に話をさせてもらったこともある。

- ◆ 病気や事故などで準備する間もなく急に空き家になってしまう例もある。
- ◆ 若い人が出て行ってしまう理由としては、やはり雪の対応がネックで出ていくケースがみられる。また、高齢者の一人暮らしが増えると、空き家の前に孤独死の心配もある。
- ◆ 実際住んでいる家屋だけではなく、農作業小屋や蔵などを複数持っている家が多い。それらも使わないのであれば、元気なうちに解体していかなくてはという思いはある。
- ◆ 将来に向けて準備をしておかなければという思いはあっても、なかなか実際住んで生活している間は壊したりするための準備に踏み切れないのが現状である。
- ◆ 立地的には山際で隣家とも距離があり、近隣への迷惑という点では、市街地などと比べてあまり心配ではないという状況もある。
- ◆ できれば、売ったり貸したりしたいというのが第一であるが、実際には相手がいらないというのが現実である。若い人にとってはやはり、トイレや水回りなどがネックになるケースが多い。地域的に合併処理浄化槽であるというのもネックがある。結局、相手がいらないため、壊すという選択肢しかなく、そのための解体費用をためておくというのが実情だと思う。
- ◆ リノベーションしてでも移り住んできたいという人はなかなかいない。六呂師地区などは風光明媚という点で移り住んできたい人もいるかもしれないが、阪谷地区の中でもそういったところばかりではない。また、阪谷地区では生活基盤として農業を生業として移り住んできたいと思う人もいるかもしれないが、そのためには農業機械の購入など家屋のリノベーションだけではなく費用が必要である。お金の面で非常にハードルが高い。ましてや農業で十分食っていけるという時代でもない。
- ◆ なかなかこれといった解決策はないが、やはりまずは家庭、家族の中で十分に話し合い、考えることが大事である。
- ◆ 家屋は個人の所有物であり、なかなか地域でできることや補助金などの公的支援というのも難しいと思うが、まずは、今回の座談会のように、それぞれに意識啓発するようなきっかけをつくることが大事だと思う。

第3テーブル

- ◆ 地区内に空き家があり、獣（イタチ、ハクビシン）が出入りしているのを見かける。巣をつくっているのではないかと思われ、子ども達に危険がないか心配に感じる。また、時期になると、ハチの巣も多く見られ、誰も駆除しないし危険を感じている。

- ◆ 空き家でもいろいろあり、まったく出入りのない空き家、毎年盆や正月に帰ってきている空き家、春休みや夏休みに戻ってきている別荘扱いの空き家がある。
- ◆ 空き家と思っていても帰ってきている人がいて、住人なのか、身内なのか誰か分からないことがあるので怖く感じることもある。
- ◆ 実際、親が亡くなったことにより土地や家屋、山などの相続や取り扱いに困っている。自分でネットなどを使って調べてはいるが限界があるので、リノベーションや専門的な相談窓口などがあれば教えてほしい。
- ◆ 昨年、お盆の時期にサンプラザの前で勝山市の職員と思われる人が「空き家はないですか」などの呼び込みをしていた。良いことだと思った。
- ◆ 地域内に高齢者が所有の家が多く見られる。売る、貸す、使う、解体するなど、どうするかを家族で話し合うのが大事だと思った。
- ◆ 星空保護区、県の六呂師高原活性構想、スターランドさかだにの再開などに乗って、六呂師方面を中心に空き家をショートステイ用にリノベーションして、市外や県外からの来訪者が利用できるようにしていくと良いのではないかな。